

事業評価シート

番号 1840050 _ 001

【1.基本情報】

事業名	加納栄町通り3丁目加納東丸町1丁目線				
担当部名	基盤整備部	担当課名	道路維持課		
未来地図政策	安心な暮らしにつながる防犯や交通安全などの充実			政策コード	5 - 2 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※		実施主体	岐阜市
実施期間	平成27年度～	令和3年度	根拠法令 関連計画※	高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律	

【2.事業概要】

事業の目的	車道と歩道を分離することで、高齢者、障がい者及び児童生徒をはじめとする歩行者に対する安全で快適な歩行空間を創出する。	
事業の内容	安全で快適な歩行空間を確保するために、バリアフリーに対応した歩道整備を行う。	
事業の対象	何を	安全で快適な歩行空間を確保するための歩道の改良
	誰に (対象者・対象者数)	道路利用者(高齢者、障がい者、児童生徒をはじめとする歩行者)
	どのくらい (具体的 数値で)	道路整備延長 L=520m, 道路幅員 W=20.0m (両側歩道 W=3.5m, 車道 W=13.0m) (排水工、舗装工、区画線工、安全施設工)
令和元年度 (実施内容)	工事 L=89m (排水工、舗装工、区画線工、安全施設工)	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	3,952	130	4,121	130	4,420	130
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	3,952	130	4,121	130	4,420	130

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		32,894	17,600	58,904
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	工事	32,894	17,600	58,904
	委託			
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		32,894	17,600	58,904

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	36,846	21,721	63,324

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	17,820	8,700	28,050
県支出金			
市債	13,100	7,800	25,200
使用料・手数料			
その他			
計(F)	30,920	16,500	53,250

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	5,926	5,221	10,074

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	道路利用者	道路利用者	道路利用者
受益者数			
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	道路整備延長		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	90	120	70
実績値	115	112	89

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	歩道のバリアフリー化率		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	44.2	67.3	80.8
実績値	38.5	55.4	68.8

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	高齢者や子どもをはじめとする道路利用者(歩行者)に対する、安全で快適な道路整備である。 岐阜市が所管する道路であるため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	不特定多数が利用する安全安心な道路整備であり、歩行者の安全で快適な利用に有効な事業である。 公共性が高く民間等で実施が困難なため、岐阜市で実施する必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	歩道のバリアフリー化により、安全で快適な歩行空間を確保することができる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	幹線道路である都市計画道路の整備であり、高齢者や通学児童・生徒を中心とした多数の利用者の利益に資する。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	歩道改良によるバリアフリー化の実施により、高齢者、障がい者をはじめとする歩行者に対する安全で快適な歩行空間が創出されており、引き続き事業を実施していく必要がある。

事業評価シート

番号 1840050 002

【1.基本情報】

事業名	交通安全施設整備				
担当部名	基盤整備部	担当課名	道路維持課		
未来地図政策	安心な暮らしにつながる防犯や交通安全などの充実			政策コード	5 - 2 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	令和元 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	道路交通法・高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律	

【2.事業概要】

事業の目的	道路の安全性を向上させ、交通事故発生の抑制を図る。	
事業の内容	市民が安全で安心して道路を利用できるよう、交通安全施設である道路反射鏡、防護柵、区画線、案内標識などの設置及びバリアフリーに適合した安全で快適な歩行環境の実現のための歩道改良を行う。	
事業の対象	何を	交通安全対策として、道路反射鏡など交通安全施設の設置及び歩道の改良の実施
	誰に (対象者・対象者数)	道路利用者
	どのくらい (具体的 数値で)	交通安全対策が必要な道路
令和元年度 (実施内容)	歩道改良(光萱場東線ほか1路線 L=93m) 道路反射鏡(新設)N=239基、防護柵(新設・改良)L=1,438m ほか	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	11,000	347	11,000	347	11,798	347
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	11,000	347	11,000	347	11,798	347

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		147,825	134,642	143,489
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	工事	147,825	134,642	143,489
	委託			
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		147,825	134,642	143,489

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	158,825	145,642	155,287

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他	68,280	59,847	54,998
計(F)	68,280	59,847	54,998

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	90,545	85,795	100,289

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	道路利用者	道路利用者	道路利用者
受益者数			
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	歩道改良整備延長		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	130	180	70
実績値	125	182	93

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	事故死傷者数の減少		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2,000	2,000	2,000
実績値	1,788	1,516	1,482

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	地元からの危険箇所の対策要望や一事故一対策に対応した事業であり、交通事故防止に寄与している。 岐阜市が所管する道路であるため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	道路の安全性を高め、交通事故防止に寄与するものである。 公共性が高く民間等で実施が困難なため、岐阜市で実施する必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	交通安全施設を設置することにより、交通事故発生の抑制が図れる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	道路利用者全体の利益に資するものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	交通安全対策として、道路反射鏡など交通安全施設の設置及び歩道改良の実施をすることにより、道路の安全性が向上し、事故件数が抑制されているため、引き続き事業を実施していく必要がある。

事業評価シート

番号 1840050 - 003

【1.基本情報】

事業名	道路舗装整備				
担当部名	基盤整備部	担当課名	道路維持課		
未来地図政策	持続可能な都市基盤づくりの推進		政策コード	6 - 2 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	令和元 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境の向上 市内交通の安全性・利便性の向上 適切な維持管理による道路管理瑕疵の抑制 	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市道舗装の改良・更新 未舗装市道の舗装整備 	
事業の対象	何を	道路舗装
	誰に (対象者・対象者数)	道路利用者及び地域住民
	どのくらい (具体的 数値で)	適切な維持管理及び未舗装路の整備
令和元年度 (実施内容)	<ul style="list-style-type: none"> 舗装延長 L=23,396m 舗装面積 L=122,427㎡ 	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	16,738	528	16,738	528	17,952	528
嘱託職員	1,360	132	2,719	264	2,719	264
アルバイト	0		0		0	
計(A)	18,097	660	19,457	792	20,671	792

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		895,450	885,283	887,421
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	工事	756,801	725,910	749,493
	委託	3,510	11,210	3,630
	修繕	135,139	148,163	134,298
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		895,450	885,283	887,421

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	913,547	904,740	908,092

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	105,039	36,604	30,000
県支出金			
市債	228,200	552,300	558,200
使用料・手数料			
その他			
計(F)	333,239	588,904	588,200

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	580,308	315,836	319,892

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	道路利用者及び地域住民	道路利用者及び地域住民	道路利用者及び地域住民
受益者数			
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	舗装整備面積		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	—	—	—
実績値	131,663	121,776	122,427

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	市内交通の安全性・利便性の向上(舗装率)		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	—	—	—
実績値	82.02	82.05	82.10

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	道路利用者や地域住民に対し、生活環境の向上、安全性・利便性の向上、道路管理瑕疵の抑制を図るには、道路舗装整備は欠かすことができない事業である。 岐阜市が所管する施設であるため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	舗装整備により道路の安全性向上が図られているが、既設舗装の老朽化が進んでおり、今後は更新などの対策をより一層重点的に行う必要があることから、事業費の増加が見込まれる。 公共性が高く民間等で実施が困難なため、岐阜市で実施する必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込みか) ※【2】【7】から	高	道路舗装の改良、新設によって、生活環境の向上、安全性・利便性の向上、道路管理瑕疵の抑制を図ることができた。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	道路舗装は岐阜市全域で整備されているが、道路舗装の新設など受益者である道路利用者及び地域住民が限定的な場合がある。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	舗装の改良、新設により、生活環境の向上及び安全性・利便性の向上、道路管理瑕疵の抑制を図ることは重要であるため、引き続き事業を実施していく必要がある。

事業評価シート

番号 1840050 004

【1.基本情報】

事業名	蕪城町玉宮町線				
担当部名	基盤整備部	担当課名	道路維持課		
未来地図政策	市民の生命と財産を守る防災や消防の充実		政策コード	5 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成29年度～	令和4年度	根拠法令 関連計画※	電線共同溝の整備等に関する特別措置法等	

【2.事業概要】

事業の目的	「安全で快適な通行空間の確保」、「都市景観の向上」、「都市災害の防止」、「地域活性化」を図る。	
事業の内容	市道(蕪城町玉宮町線)の無電柱化整備及び修景整備	
事業の対象	何を	「安全、景観、防災」等に寄与する無電柱化整備及び道路修景整備
	誰に (対象者・対象者数)	道路利用者
	どのくらい (具体的 数値で)	道路整備延長 L=520m, 道路幅員 W=25.0m (両側歩道 W=6.0m, 車道 W=13.0m) (無電柱整備延長 L=1,000m)
令和元年度 (実施内容)	引込管路等設計業務委託	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,979	98	4,121	130	4,420	130
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	2,979	98	4,121	130	4,420	130

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
			5,054	6,536
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託		5,054	6,536
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		0	5,054	6,536

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,979	9,175	10,956

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			2,805
県支出金			
市債			2,000
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	4,805

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,979	9,175	6,151

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者		道路利用者	道路利用者
受益者数			
受益者負担額(千円)		0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	無電柱化道路の延長		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値		0	0
実績値		0	0

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	電柱本数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値		0	0
実績値		14	14

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	道路利用者に対して、安全で快適な通行空間の確保をはじめ、都市景観の向上及び都市災害の防止等を図る事業である。 岐阜市が所管する道路であるため、市が主として管路の設置や道路の舗装を行う必要があり、電線管理者が管路の通線や電柱の撤去を行っている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	幹線道路の無電柱化整備は、安全で快適な通行空間の確保のほか、大規模地震などの災害発生時に電柱の倒壊による輸送路の分断等を回避し、迅速な災害復旧に資する事業である。 道路管理者である岐阜市が主体となり、電線管理者と共に実施すべき事業である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	無電柱化整備によって、道路上の電柱や電線類がなくなることにより、都市景観の向上、安全で快適な通行空間の確保及び都市災害の防止等を図ることができる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	岐阜市の都心拠点における整備であり、多数の道路利用者の利益に資する。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	安全で快適な通行空間の確保及び都市景観の向上、都市災害の防止等を図るため、引き続き事業を実施していく必要がある。

事業評価シート

番号 1840050 - 005

【1.基本情報】

事業名	真砂町11丁目光明町3丁目線				
担当部名	基盤整備部	担当課名	道路維持課		
未来地図政策	市民の生命と財産を守る防災や消防の充実		政策コード	5 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成29年度～	令和4年度	根拠法令 関連計画※	電線共同溝の整備等に関する特別措置法等	

【2.事業概要】

事業の目的	「安全で快適な通行空間の確保」、「都市景観の向上」、「都市災害の防止」、「地域活性化」を図る。	
事業の内容	市道(真砂町11丁目光明町3丁目線)の無電柱化整備及び修景整備	
事業の対象	何を	「安全、景観、防災」等に寄与する無電柱化整備及び道路修景整備
	誰に (対象者・対象者数)	道路利用者
	どのくらい (具体的 数値で)	道路整備延長 L=520m, 道路幅員 W=25.0m (両側歩道 W=6.0m, 車道 W=13.0m) (無電柱整備延長 L=1,000m)
令和元年度 (実施内容)	引込管路等工事業務委託 工事 L=256.5m 特殊部 N=4箇所	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,979	98	4,121	130	4,420	130
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	2,979	98	4,121	130	4,420	130

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託	10,449	7,693	35,168
	工事		22,475	80,511
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		10,449	30,167	115,679

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	13,428	34,288	120,099

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金		22,000	59,675
県支出金			
市債		9,900	45,600
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	31,900	105,275

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	13,428	2,388	14,824

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	道路利用者	道路利用者	道路利用者
受益者数			
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	無電柱化道路の延長	単位	m
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値		0	0
実績値		0	0

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	電柱本数	単位	本
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値		0	0
実績値		30	30

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	道路利用者に対して、安全で快適な通行空間の確保をはじめ、都市景観の向上及び都市災害の防止等を図る事業である。 岐阜市が所管する道路であるため、市が主として管路の設置や道路の舗装を行う必要があり、電線管理者が管路の通線や電柱の撤去を行っている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	幹線道路の無電柱化整備は、安全で快適な通行空間の確保のほか、大規模地震などの災害発生時に電柱の倒壊による輸送路の分断等を回避し、迅速な災害復旧に資する事業である。 道路管理者である岐阜市が主体となり、電線管理者と共に実施すべき事業である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	無電柱化整備によって、道路上の電柱や電線類がなくなることにより、都市景観の向上、安全で快適な通行空間の確保及び都市災害の防止等を図ることができる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	岐阜市の都心拠点における整備であり、多数の道路利用者の利益に資する。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	安全で快適な通行空間の確保及び都市景観の向上、都市災害の防止等を図るため、引き続き事業を実施していく必要がある。

事業評価シート

番号 1840050 - 006

【1.基本情報】

事業名	街路灯のLED化				
担当部名	基盤整備部	担当課名	道路維持課		
未来地図政策	公共施設等の最適な管理・運営		政策コード	7 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成26年度～	令和9年度	根拠法令 関連計画※	道路照明灯修繕計画	

【2.事業概要】

事業の目的	道路利用者の夜間における道路交通の安全と事故防止を図るため、既存灯具に比べ、長寿命であるLED灯具への交換を進める。また、LED化による省電力化に伴い、電気代等の維持管理費及びCO2排出量の低減を図る。	
事業の内容	既存街路灯をLED灯具へ改良するとともに、新設においては、LED灯具を設置する。	
事業の対象	何を	LED街路灯
	誰に (対象者・対象者数)	道路利用者及び地域住民
	どのくらい (具体的 数値で)	市が管理する街路灯全てのLED化(N=23, 169基)
令和元年度 (実施内容)	・既存水銀灯等からLED灯具へ改良 N=1, 019基 ・自治会連合会等からの地域要望に応じて新設 N=191基	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	0		0		0	
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	0	0	0	0	0	0

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		104,196	232,630	226,405
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	工事	104,196	232,630	226,405
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		104,196	232,630	226,405

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	104,196	232,630	226,405

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	15,609	6,740	11,500
県支出金			
市債	67,400	192,300	184,400
使用料・手数料			
その他			
計(F)	83,009	199,040	195,900

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	21,187	33,590	30,505

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	道路利用者及び地域住民	道路利用者及び地域住民	道路利用者及び地域住民
受益者数			
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	街路灯設置・改良		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	1,796	1,379	1,733
実績値	2,805	1,478	1,210

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	維持費(電気代)の削減		単位
	平成29年度	平成30年度	千円/年
目標値	—	—	—
実績値	—	7,000	18,000

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	道路利用者へ夜間の道路交通の安全と事故防止を図るには、街路灯は欠かすことができない施設である。また、水銀灯は令和2年に製造中止が決定しており、既存水銀灯のLED化は急務である。 岐阜市が所管する施設であるため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	LEDは水銀灯に比べ長寿命且つ省電力であるため、LED化により電球交換サイクルの延伸及び電気代等の維持管理費の低減を図ることができる。 公共性が高く民間等で実施が困難なため、岐阜市で実施する必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	LED化による省電力化且つ電球交換サイクルの延伸によって、目標値より多くのCO2排出量の削減を図ることができた。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	街路灯は、岐阜市全域に設置されており、受益者は道路利用者及び地域住民全般である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	道路利用者の夜間における道路交通の安全と事故防止を図るため、街路灯は欠かすことのできない施設である。また、水銀灯は令和2年に製造が中止となるため、LED化は急務であり、引き続き事業を実施していく必要がある。

事業評価シート

番号 1840050 - 007

【1.基本情報】

事業名	側溝整備				
担当部名	基盤整備部	担当課名	道路維持課		
未来地図政策	持続可能な都市基盤づくりの推進		政策コード	6 - 2 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	令和元 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境の向上 雨水の円滑な排水による内水対策 適切な維持管理による道路管理瑕疵の抑制 	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 既設側溝の改良 新設側溝の整備 	
事業の対象	何を	道路側溝
	誰に (対象者・対象者数)	道路利用者及び地域住民
	どのくらい (具体的 数値で)	適切な維持管理及び新設整備
令和元年度 (実施内容)	<ul style="list-style-type: none"> 既設側溝の改良 L=12,631m 新設側溝の整備 L= 2,062m 	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	12,553	396	12,553	396	13,464	396
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	12,553	396	12,553	396	13,464	396

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		1,185,351	1,178,591	1,116,739
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	工事	1,185,351	1,171,679	1,116,739
	委託料		6,912	
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		1,185,351	1,178,591	1,116,739

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,197,904	1,191,144	1,130,203

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	176,579	112,820	50,580
県支出金			
市債	444,300	768,900	657,900
使用料・手数料			
その他		92,927	
計(F)	620,879	974,647	708,480

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	577,025	216,497	421,723

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	道路利用者及び地域住民	道路利用者及び地域住民	道路利用者及び地域住民
受益者数			
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	側溝整備事業		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	—	—	—
実績値	15,763	15,419	14,693

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	側溝の整備率		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	—	—	—
実績値	52	52	53

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	道路利用者や地域住民に対し、生活環境の向上、雨水の円滑な排水による内水対策、道路管理瑕疵の抑制を図るには、側溝整備は欠かすことができない事業である。 岐阜市が所管する施設であるため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	側溝整備により、浸水被害の軽減が図られているが、既設側溝の老朽化が進んでおり、今後は更新などの対策をより一層重点的に行う必要があることから、事業費の増加が見込まれる。 公共性が高く民間等で実施が困難なため、岐阜市で実施する必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	側溝の改良、新設によって、生活環境の向上、雨水の円滑な排水による内水対策、道路管理瑕疵の抑制を図ることができた。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	側溝は岐阜市全域で整備されているが、側溝の新設など受益者である道路利用者及び地域住民が限定的な場合がある。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	側溝の改良、新設により、生活環境の向上及び雨水の円滑な排水による内水対策、道路管理瑕疵の抑制を図ることは重要であるため、引き続き事業を実施していく必要がある。